

# 子どもの安全社会全体で

西条・園児水死  
両親創設「学会」 10回目最後の大会

2012年に西条市で、幼稚園のお泊まり保育中に



これまでの活動について  
思いなどを語る吉川優子  
さん(右) 30日午後

川に流され死亡した吉川慎之介ちゃん(当時5)の両親らが創設した「日本子ども安全学会」の第10回大会が30日、オンラインであり、子どもの安全に関する活動や研究をしている市民や研究者が活動報告を行った。学会は14年に発足。会を運営する「吉川慎之介記念基金」が23年度の活動を最後に解散するため、最後の大会となった。

現在、西条市でライフジ

ヤケット普及の活動などを行う「Love & Safety(いじょう)」の山崎敦子(52)と久保一平(51)が講演。市民団体としてセミナーやシンポジウム、小学校などでのライフジャケット着用体験などを地元で続けていることを報告した。

水難事故防止に関する研究発表のほか、子どもの死因を検証して再発防止策につなげる「チャイルド・デス・レビュー(CDR)」制度に関する香川県での取り組み事例や、保育所バスに数時間取り残される事故に遭った女兒の姉によ

る啓発活動の発表があった。

慎之介ちゃんの母・優子さん(52)は「どうすればあの事故を防げたのか、どうすれば繰り返される事故を防げるのかを考えてきた。家族だけでは動けなかったし、今は当時とは違う社会になった」とし「遺族主体の活動を11年続けてきたが、これから社会の一員として命を守ることを考えていく。みんなできつっていく活動に参加したい」と語った。

(高橋圭太)